



hetDorp

Het Dorp ヘットドルプ (直訳すると村、名称として使ってる)

名称として使っている

住むこと・・・ヘットドルプの核となる言葉
自分の住所、自分の地域、通りにある家
町にある家。市民たちがいて、隣人たちがいる

「国」よしんば「年」も

Het begin...

hetDorp vindt zijn oorsprong in 1962, dank zij de nationale actie "Open Het Dorp". Een 24 uur durende radio- en TV-uitzending bracht vele duizenden : Nederlanders ertoe een geldbedrag te storten, groot of klein, waardoor de bouw van hetDorp mogelijk werd. Het ging om hetDorp, maar dat niet alleen. Deze actie blijkt een onmisbaar moment te zijn geweest voor de emancipatie van mensen met een lichamelijke handicap in de Nederlandse samenleving. Wonen, op een eigen adres, een eigen plek. In een huis in een straat, een huis in een stad, burger zijn en burens hebben. Wonen met ADL-hulp, maar niet beheerst door die hulp.

Het emancipatieproces, waarin de actie van 1962 een eerste belangrijke mijlpaal vormde, is voortgegaan. Dat is zeker ook te danken aan een sterk doorgevoerde democratisering, waarbij hetDorp vaak de weg heeft gewezen en blijvend een voortrekkersrol wil en kan vervullen.

Lange tijd was hetDorp uniek. Inmiddels zijn er talrijke woonvormen. Die hebben vaak ieder hun specifieke karakter. Gemeenschappelijk hebben zij echter dat kernwoord: wonen.



はじまり

ヘットドルプをオープンしようという国民的運動のおかげで、1962年が起源と考えられている。24時間放送のラジオやテレビキャンペーンによって、数千人のオランダ人が小額から高額の寄付をした。この寄付によってヘットドルプの建物の建設が可能になった。この運動は建物を建てるためだけでなく、オランダ社会においてハンディキャップのある人々（身体障害者達）の開放のためなくてはならないものであった。住むこと、自分の地域、通りにある家、町にある家、市民たちがいて、隣人たちがいる。自立して生活するためのヘルプ（ADLヘルプ組織）に管理されないが、このヘルプとともに住むこと。1962年のこの運動によって、最初の重要な一里塚が築かれた開放過程は、今も続いている。パイオニア（先駆者）的役割り担い果たし、民主化に強く貢献している。長い間ヘットドルプはユニークな存在だった。いろいろな種類の住居形態があり、この住所形態は個人個人の特別な性格を持っている。この住所形態の核となる言葉は "住むこと" である。

組織

ヘットドルプは、アーネムに属する地区だが、日常のリーダーと共にする協会の形態で独自経営の組織がある。三人の会員によって村の管理は形成されている。

ヘットドルプに住むか働いている人誰でもが、この管理に多くの意見を述べることができる。話し合いはみんなと一緒にいられ、全員あるいは評議会（企画評議会）の代表者で決定する。ヘットドルプは住民評議会、協力者、管理する評議会を持ち、協力者や住民の代表者達が相談する。ヘットドルプは、一方では社会の普通の部分であり、他方、自己の統治を持つ社会であり、投票権のある権利と義務を負った社会である。



新しい出発

ヘットドルプに住むということは、新しい出発 新しい局面の始まりを意味する。

ある人々は自分自身で喜んで、はっきりとヘットドルプに住むことを願い、アーネムという町において、社会的関係を作り出す。他の人々は、数年間、アーネムで生活することを学び、その後、他の場所を見つけ生活したいと思っている。

再び、ヘットドルプに住む人たちにとっては選択はより少なくなる。なぜならば、彼らのハンディキャップをみると、彼らの自由のために、ヘットドルプは唯一の依存した住居形態であるからだ。

全て可能である。なぜなら、住むということは、社会においてどこかに自分自身の場所を持ち—全ての限界と一緒に—あなた自身の選択です。

こういう場所をヘットドルプはあなたに供給するのです。

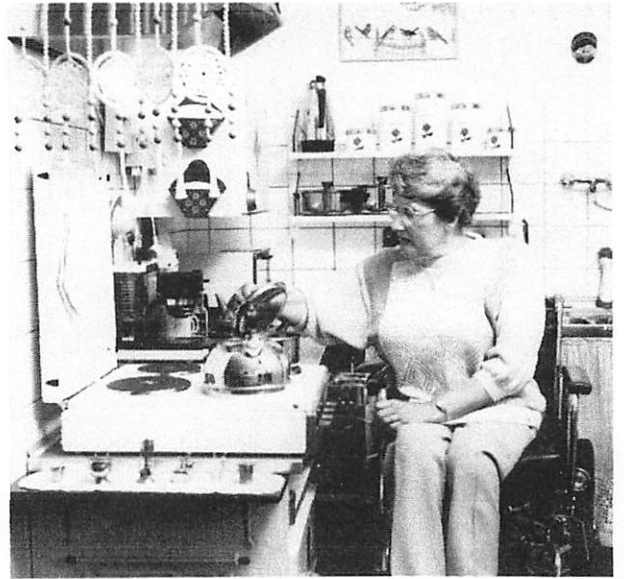
ヘットドルプに住む

ヘットドルプはアーネムという町の北東にあるフェルウェという地域の傾斜面にあり、アーネムの自治市の団地を形成している。独身者や数10組の既婚者や同棲者のために合計300人の住人に住む空間を供給している。

ここヘットドルプにおけるプラス面は、多くのことが供給されるだけでなく、開発の最近技術の可能性の入口にることである。ヘットドルプの規模が大きすぎるといふマイナス面は規模は建物によって補われている。(このことはヘットドルプが大きいことを意味している)

ヘットドルプには、低層住宅やフラットがあり、個人として住むために多くの可能性とともに、小さな共同保有の住居にグループ化されている。

この写真は
ヘットドルプの
住居の様子を
写している



住居は、玄関、居間と寝室、そしてトイレ付きシャワールームがある。

たくさんの住居、例えば夫婦のための住居はより大きくなっている。

もし、技術的援助が必要であれば供給される。例えば、自動ドア、補助道具、電話の設置、カーテンの開閉装置、電気の自動点灯消灯装置、テレビの設置など。

住民たちは、多くの部分を自分自身で備えることもできる。

誰がヘットドルプに住むのか？

ヘットドルプの人口構成は、社会を反映している。人口のあらゆる層の出身である若者からお年寄りまで、既婚者、未既婚者、男の人、女の人...

少数の合法的なパートナーや子供たちを除いて、全ての住民達は、身体的ハンディキャップを持っている。身体的ハンディキャップはあらゆる違いがある。

ヘットドルプには、先天的あるいは後天的に起こったハンディキャップ、例えば、脳性麻痺患者、脊髄損傷（破綻）患者、小児麻痺患者、あるいは進行性のあるハンディキャップ、多発性硬化症、筋ジストロフィー（栄養失調症）やリウマチの患者さん達が住んでいる。

ヘットドルプには、基準を取り扱う選択委員会があり、ヘットドルプに住みたいと思う者は、この委員会の人とともに深く考える。住みたいと願う者自身の住みたいという希望が最も重要な基準である。

援助の用意

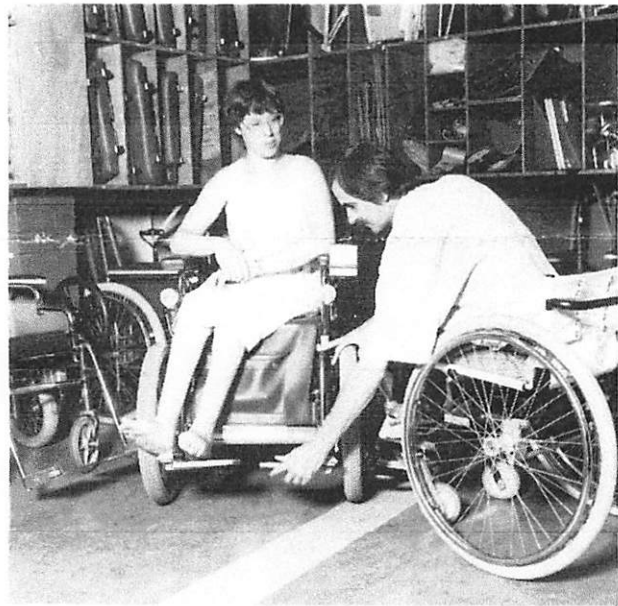
ヘットドルプは、日常的、個人的、身体的ケアのヘルプを供給している。これらのヘルプはドヘラと名付けられた協力者によって与えられる。

そして家事のヘルプが利用できる。もし必要なら、ホームドクター、地域看護師、ソーシャルワーカーや牧師によるヘルプも与えられる。

リハビリテーション技術の特別な課が時々、ジュミン自身が自治性、機動性を高めるための大変進んだ技術の適合が用意されている。

ヘットドルプにいる人は、予防的ハンディキャップの場合において、ヘルプに関して、専門的な知識や体験を利用している。

医療的、準医療的ヘルプのためにリハビリテーション医師や理学療法士そして他の医療者がヘットドルプのそばにあるクルメンダールと呼ばれる大人のための地方のリハビリテーションセンターにいる。



ヘットドルプのヘルプの特徴は、住民がヘルプを必要とすれば供給され、その必要性がなければヘルプはない。与えられるヘルプは住民自身が持つ可能性に合わせられる。ヘットドルプにはケアサービスセンターがない。ケアサービスセンターが一番重要ではなく、住民が必要とするヘルプと共に自活することが一番重要なのである。

働くことと活動

全ての人間にとって、社会参加は重要な部分である。仕事をすること、役目を担うこと、社会の義務を果たすことや他の方法で家の外で忙しくすること、強く大いに貢献できること。少数のある住民は、アーネムという町やその付近において、あるいはヘットドルプ自身の組織に活動範囲を持ち、

彼らの仕事の30%はハイエンノードという町の社会の仕事を担っている。この仕事場において、基本的に利益を得る仕事となり、仕事の場所、道具一式、ヘルプの手段は個人個人に適合される。

生産品は、例えば既成服や陶磁器である。さらに点字の本、木製品、電気技術の一部なども製作している。そして第三者のためになっている。

働きたくない人や働けない人には、日中、正当に活動センターで過ごすことができる。そこでは、例えば刺繍、クロスステッチ、織物を織る事など手作業をすることができると同時にいろいろなレッスンや読書会、討論会そして遠足などもある。



活動センターでの仕事や活動を除いて、多くの住民は住民相談などの仕事を持ち、仕事グループや委員会はヘットドルプがうまくいくような方法で運営している。

協会やクラブがいくつも設立されているが、この協会やクラブの会員は、ヘットドルプの人達だけではない。このクラブなどにおいて住民はスポーツをし、音楽を楽しみ、庭作りをし、鳩を飼育したり、夜カフェなどに行ったりしている。多くの活動は、デュストロール（直訳するとかぎ）と呼ばれるヘットドルプの家の待合室やふれあいセンターや教会、文化センター、スポーツセンターで行われる。

限定された規模において、ヘットドルプには、プログラム化された活動や教育があり、このことはアーネムの町においても行われる。アーネムの町は、車椅子に優しい町であり、この町は、まず最初にハンディキャップを持った市民達のことを考えて、いろいろなものを設定している。

町民センターは、ヘットドルプから、たった1500メートルの距離にある。日常の買い物のために住民達はアーネムの町を必要としない。ヘットドルプには、スーパーマーケットがあり、近くの地域の多くの住民が利用する郵便局、図書館などもある。